



新しい「学びの指標」を試行※します！

※令和3年度は、すべての県立中学・高校で全県共通質問を実施します。



「学びの指標」が目指すもの

- 生徒一人ひとりの存在や個性を大切にします
- 生徒一人ひとりから立ち上がる学びや意欲を重視します
- 学校を、居心地のよい、活力に満ちた学びの空間にします

具体的には

具体的な質問

生徒は
自分を見つめ、
具体的な質問に回答

活用

学校は、生徒一人ひとりの

- 今の状態を受け止め、受容し、支援する
- 変容・成長を受け止め、支援する

考え方(理念)

学校を 

生徒一人ひとりの存在や人権、個性が大切にされ、
生徒が生き生きと学ぶことのできる空間に

それにより

個人と社会のWell-being* の実現



*Well-beingとは、一人ひとりが心身の潜在能力を発揮し、人生の意義を感じ、周囲の人との関係のなかで生き生きと活動している状態のことであり、近年OECDやユネスコでも教育の達成目標として重視している。

新しい「学びの指標」の導入により...

教員は…

一人ひとりの生徒を
受け止め・支える
教育活動の工夫・改善

Aさんの個性を
大切にしたい！

Aさん、
伸びて
きたね！

議論の
きっかけ・
活性化

あの活動、少し
変えてみよう！

生徒は…

自分自身の捉え方の変化

私は、私でいいんだ！

学んで
楽しい！

自信が湧いて
きた！

学びへの
エネルギー

安心感

保護者は…

子どもたちに対する
見方・接し方の変化

あの子、こんな
こと考えて、
頑張っていた
のね！

認め
励まし



考え方(理念)

一人ひとりを大切に、学校が生き生きと学ぶことのできる空間となることを目指します

これまで、中学校・高等学校における個々の生徒の「学びの成果」は、試験の順位や偏差値など、他の生徒との比較により相対的に見られる傾向が強く、結果として、必ずしもすべての生徒のモチベーションの向上につながっていない面があるばかりか、そのことにより、悩んだり、自己肯定感を喪失する生徒もいました。

変化が激しく、正解がない時代を迎え、一人ひとりのいのちや人権、個性が尊重されることがますます大切になっています。学校においても、これまで以上に一人ひとりの生徒の存在や、そこから立ち上がる学びや意欲を重視していくことが大事だと考えます。

新しい「学びの指標」は、教科・科目等をはじめ、日々の学びの総体の中で、生徒一人ひとりがどのような状態にあるかをみるものです。生徒は、質問に答える形で、他の生徒との比較ではなく、自分自身の状態そのものを見つめ、自己を認識していきます。従って、生徒全員が同じ到達度を目指す必要はなく、個人差や凸凹はあってもよい、むしろあるのが当然だと考えています。

この指標の活用により、学校が、生徒一人ひとりの存在や人権、個性が大切にされ、生徒が生き生きと学ぶことのできる空間となるとともに、すべての生徒・教員にとって居心地のよい、活力に満ちた学びの空間となることを目指します。

具体的な質問

質問には、**全県共通質問**と**学校独自質問**があります

生徒がそれらに対して「**自分自身をどうみるか**」、「**なぜそう思うのか**」について答えます

**** 全県共通質問 (3つ) **** 令和3年度試行

- 自分なりの価値観や考え方をもっている
- これから先、どのように生きていきたいかを考えている
- 自分にはよいところがあると思う



**** 学校独自質問 **** ※質問は、学校ごとに必ず生徒がかかわりながら設定します

- ・ 学校が、生徒等とともに検討しながら設定する
- ・ 学校が生徒とともに設定した複数の質問の中から、さらに生徒が選択する
- ・ 生徒が自分で設定する

活用

学校は、生徒の回答を受け止め、成長を支えていくための「**対話**」を大切にします

**** 生徒が、自身へのフィードバックとして ****

他者との比較ではなく、自分自身の過去と現在を見つめましょう。
現在の自己を認識することで、自身の変容・成長等の発見があるかもしれません。

**** 学校から、生徒へのフィードバックとして (面談や日常の対話などを通じて) ****

教員は、一人ひとりの回答から、生徒の「今」の状態を受け止め、受容します。
そして、生徒と対話をしながら、変容・成長を受け止め、支えていきます。

**** 学校が、校内や教員の教育活動へのフィードバックとして ****

学校では、学校教育目標や校内の教育内容、指導について振り返る「きっかけ」に用います。
そして、教育活動や指導の改善、さらなる充実につながります。

***** 家庭でも、子どもたちの「今」を受け止め、支えていくことが大切です *****



Q1 「学びの指標」は成績に反映されるのですか。

「学びの指標」は、生徒による自己評価ですので、それを直接、各教科・科目等の成績(評定)に反映することはありません。

Q2 現在、就職試験や大学等の入試では点数や評定による評価が多く用いられる中で、長野県の県立中学校・高等学校だけが生徒に対して「学びの指標」を導入することにどんな意味があるのでしょうか。

変化が激しく、正解がない時代を迎え、大学・企業等の入学・就職試験や教育等も変わってきています。

例えば大学では、入学志願者の知識・技能のみならず思考力・判断力・表現力や能力・意欲・適性等を多面的・総合的に評価・判定する選抜方法への転換が図られています。また、企業経営者の方々からは、「一人ひとりに焦点をあてて育てること、自信を持たせることが、日本や世界にとって重要な時期に来ている」というご意見をいただいています。

このような変化は、今後もさらに広がることが予想され、また、生徒が高校卒業後に様々な進路先や社会で新しい時代を生きていくことを考えたとき、学校では、これまで以上に一人ひとりの生徒の存在や、そこから立ち上がる学びや意欲を重視していくことが重要だと考えます。そのため、生徒・保護者を始め、県内の企業や大学等上級学校の関係者等、県民の皆さんに「学びの指標」の考え方(理念)に対するご理解を広めていくことが大切だと考えます。

Q3 自分に自信をもてない生徒が質問に答えることは、さらに苦しい思いをさせてしまうのではないですか。

学びの指標は、苦しさを抱えているものの表出していない生徒を把握し、生徒の声に耳を傾け、声かけをし、対話をして支援していくことに有効と考えます。しかしながら、自信を喪失していると教員が把握している生徒に対しては配慮が必要です。実施を止めたり、無理に答えなくてよいと声かけする等の対応が考えられます。